

# たろばな 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

## 待機乳児保育室 保護者懇談会

日時 2014年11月25日(火)  
12:00 ~ 13:00

9月に開室した「保育園入園待機乳児のための保育室」を利用している保護者の懇談会を行いました。育児・介護支援事業WG主査 山肩洋子先生の司会進行で、昼食を食べながら、子どもたちの保育室での様子をスライドを見て、説明を聞きました。



手遊びへの保護者の関心は高く、「やきいも♪」の歌にあわせた手遊びを、子どもがやっているのだけれど、よくわからないので教えて欲しい、とのリクエストが、外国人研究者からありました。保育士さんに習って、保護者も歌に合わせて手遊びをしたり、保護者間でも育児の相談をするなど、保護者同士の交流を深めました。



## "Women and Wish" フォーラム 1 男女共同参画推進センターのサービスを利用して

日時 2015年1月26日(月)  
【講演・発表】14:00 ~ 15:00 【ディスカッション】15:00 ~ 16:00  
場所 芝蘭会館別館 研修室2

2014年10月、京都大学第26代総長に山極壽一先生が就任されました。6つの活動指針の頭文字をとった標語 WINDOW の結びの "W" は、男女共同参画社会実現のための "Women and Wish" です。男女共同参画推進センターでは、新たにシリーズ "Women and Wish" フォーラム を企画しました。第1回は、山極総長と本学若手女性研究者によるトーク・セッションです。山極総長による WINDOW 構想についての思いを語っていただいた後、男女共同参画推進センター(旧女性研究者支援センター)の「研究・実験補助者雇用制度」「病児保育室」「待機乳児保育室」「おむかえ保育」の利用者に登壇いただき、フロアーの他の利用者やセンターのWG主査も交え、女性研究者支援に必要とされるものを含め今後の男女共同参画社会のあり方についての意見交換を行います。

京都大学男女共同参画推進センター  
シリーズ "Women and Wish" フォーラム1

2015.1.26(月)  
【講演・発表】14:00 ~ 15:00  
【ディスカッション】15:00 ~ 16:00

開催地 芝蘭会館別館(国際交流会館)2階 研修室2  
京都府京都市東山区、室町11-1

講師名 山極 壽一 先生 60名(先着順)  
京都大学に所属する教職員・学生

申込・予約制  
京都大学男女共同参画推進センター(旧女性研究者支援センター)の「研究・実験補助者雇用制度」「病児保育室」「待機乳児保育室」「おむかえ保育」の利用者に登壇いただき、フロアーの他の利用者やセンターのWG主査も交え、女性研究者支援に必要とされるものを含め今後の男女共同参画社会のあり方についての意見交換を行います。

参加費 無料  
申込先 京都大学男女共同参画推進センター  
E-mail: w-wish@mail.educ.kyoto-u.ac.jp URL: http://www.women-and-wish.kyoto-u.ac.jp/ 電話: 075-753-2437

男女共同参画推進センターのサービスを利用して

旅行業レポート  
愛媛大学  
洗濯研究  
研究  
研究



## 女子高生・車座フォーラム 2014

研究者や科学者の仕事を知ってもらおうと、第9回目となる「女子高生・車座フォーラム 2014」を、12月23日（火・祝）に、芝蘭会館等で開催しました。

犬塚 典子 男女共同参画推進センター特定教授による司会進行のもと、はじめに、稲葉 カヨ 理事より開会の挨拶がありました。米国で、はじめて液体燃料のロケットを打ち上げた、ロバート・ゴダードの言葉「何が不可能なのかを言うことは難しい。昨日の夢は今日の希望であり、明日の現実なのだから。」を引用され、京都大学で、興味を持つことを見つけ、より深く追求していきましようと呼びかけがありました。



次に、杉万 俊夫 理事より「京都大学の学生生活」についての話がありました。

京都大学は創立以来「自重自敬」の精神を基調に、研究・教育を実施してきたことが紹介され、この「自重自得」は、自分で考え、自分で行動することを、自己の尊厳の源とすることで説明がありました。また、京都大学を象徴するものとして、「研究型大学」

を挙げ、学問を追及していくことの大切さについて、話がありました。理事は、ユーモアを交え、講義風景、図書館や課外活動施設、大学祭やクラブ活動の様子なども、スライドで紹介されました。

続いて、学務部入試企画課より、平成27年度学生募集要項、平成28年度から実施する特色入試選抜の概要など、入試に関する説明がありました。

そして、吉永 直子 農学研究科助教より、大学で研究者になる、キャリアプランの一例として、自身の経験の紹介がありました。

先生は、京都大学農学部を卒業後、大学院農学研究科の修士課程、博士課程へと進学し、留学を経て、京都大

学の助教として着任されました。研究内容は、「昆虫と植物の関係を有機化学で研究する」というもので、虫にかじられた植物が、匂いや毒を使って防御すると、虫がこれに対応するために工夫していく、という仕組みを有機化学的手法で研究しているそうです。

先生は、学部1,2回生時の一般教養科目が、自分の道を選択するための基礎力を養うために、非常に大切であるとお考えで、様々な分野の科目を幅広く選択したそうです。中でも、文化人類学の演習での、泊り込みの現地調査を通して、フィールド調査の基本姿勢を学んだことは、非常に良い経験であったと話されました。3回生になると農学部では、全研究室を回って学生実験を行い、12月頃には、所属する研究室を決める仕組みで、迷いに迷って、最も興味を持った有機化学の研究に進んだそうです。修士課程に進学後は、就職するか、博士課程に進学するかで大いに迷いながらも、進学を選択されました。修士1回生と早めの時期に進学を決めたことで、研究室の支援を受け、学生の間で論文執筆の機会を得て、研究費の獲得にも役立ったそうです。

研究への興味から、芋虫をかわいいと思う吉永先生も、高校生の頃は虫嫌いだったそうです。会場の高校生には、これからの10年、人それぞれ、いろいろな選択をして行くことになるだろうけれど、自分の知識・教養を使って、自分の力で自分の道を選択して行って欲しいと、エールを送られました。

昼休憩後は、講師紹介・グループワークの説明後、高校生はグループごとに会場に移動して、グループワークを行いました。保護者は、稲葉 カヨ 理事の挨拶を聞いた後、京大生との交流会に参加しました。

グループワークの後には、もう一度全員が集まり、伊藤 公雄 男女共同参画推進センター支援室長の司会で、講師が高校生からの質問に答える形でまとめを行いました。その後、入試企画課により、入試に関する質疑応答を行い、プログラムを終了しました。（支援室）





## 京都大学を知ろう 研究者と語ろう



講師・グループ・グループワーク会場

氏名	所属	研究分野	会場
1 伊藤 公雄	文学研究科	文化社会学、メディア研究、ジェンダー論	別館2階 研修室1
2 犬塚 典子	男女共同参画推進センター	教育行政学	男女共同参画推進センター
3 常見 俊直	理学研究科	素粒子物理学	別館2階 研修室2
4 篠原 美都	医学研究科	発生生物学、細胞周期フロンティア	G棟2階 セミナー室1
5 丹羽 房子	医学部附属病院	新生児学	G棟2階 セミナー室2
6 生沼 泉	生命科学研究科	細胞生物学、神経化学・神経病理学	G棟2階 セミナー室3
7 神吉 紀世子	工学研究科	建築学、都市計画	本館1階 会議室
8 吉永 直子	農学研究科	生物生産化学・生物有機化学	本館2階 山内ホール
9 長谷川 千尋 金子 守恵	人間・環境学研究科 人間・環境学研究科	国際文明学 地域研究・文化人類学	別館地下 会議室

学生スタッフ

氏名	所属
1 鈴木 慎介	文学部
三輪 綾里佳	経済学部
2 財津 浩之	法学部
福井 駿平	教育学部
3 降旗 大岳	理学部
坂田 諒一	理学部
4 西尾 周朗	医学部
5 三宅 架偉	医学部
谷口 真理子	医学部
6 池内 善宣	薬学部
大森 靖之	薬学部
7 佐藤 優矢	工学部
石野 翔大	工学部
8 香月 和敬	農学研究科
森 開汰	農学部
9 平田 歩	総合人間学部
平原 健太	総合人間学部

プログラム



10:00-10:30	京都大学芝蘭会館 受付	
10:30-10:35	開会の挨拶	理事・副学長 稲葉 カヨ
10:35-10:55	京都大学の紹介	理事・副学長 杉万 俊夫
10:55-11:10	入試に関する説明	学務部入試企画課
11:10-11:30	女性研究者の講演	農学研究科 吉永 直子
11:30-13:00	昼休憩	
13:00-13:30	講師紹介・グループワークの説明	男女共同参画推進センター 犬塚 典子
13:30-13:50	移動 (休憩)	
13:50-15:00	グループワーク「車座になって話そう」 高校生：講師・京大生とのグループワーク 保護者：京大生との交流	
15:00-15:20	移動 (休憩)	
15:20-15:50	まとめ	文学研究科 伊藤 公雄
15:50-16:00	休憩	
16:00-17:00	入試に関する質疑応答	学務部入試企画課

## ワーキンググループ 活動報告

### 広報・相談・社会連携事業 WG

主査 山末 英嗣 (エネルギー科学研究科)

広報事業ではシンポジウム「日本の大学におけるダイバーシティ成果と課題ー: Global Perspectives on Diversity in Japanese Universities –Benefits and Challenges」(シリーズ 私の仕事とキャリアデザイン8)を行った。前回と同じく英語を使用言語としたが、出席者からの評価は高く、外国人学生・教員から今後も英語によるシンポジウムの継続を期待されていることが分かった。また、新たなシリーズとして「Women and Wish」フォーラムを企画した。女性研究者支援に必要とされるものを含め今後の男女共同参画社会のあり方についての意見交換をより充実させることを狙っている。

社会連携事業としては、第9回女子中高生のための関西科学塾、ジュニアキャンパス2014、女子高生・車座フォーラム2014を学内に開催し、次世代育成のための活動を行なった。これからの社会を担う若い女子学生に対し、研究職に興味を持たせるような機会を提供するとともに、更なる工夫、改善の必要性を感じた。

そして、センターの活動について、ホームページや全6号のニュースレターを通して、学内外に広報活動を行った。

### 育児介護支援事業 WG

主査 山肩 洋子 (情報学研究科)

当ワーキンググループは、京都大学の構成員の育児と介護に関する支援活動を行っている。

今年度はまず、2014年6月26日に「介護に関する講演会シリーズ 第5回 がんと共に生きる人を支える」を開催した。講師は、がん看護専門看護師として、がん患者やその家族の看護に取り組んできた医学研究科の田村恵子教授で、医師、看護師、病院経営者、ホスピスでボランティアをしている方や、がん患者の家族など、計67名もの方にご参加いただいた。

次に、2014年9月1日に待機乳児保育室を開室した。当センターが、7月に総合生存学館思修館の第二研修施設「船哲房」の1階部分に移転したため、新しい保育室での受入れである。当初の受入定員は12名としていたが、8月に受付開始した直後から多数の申し込みがあり、12月には定員の12名に達したため、保育の質を確保できる限りにおいて定員を増やして対応する予定である。2014年11月25日には保護者懇談会を開き、保育士や保護者同士の交流を行った。



### 病児保育事業 WG

主査 足立 壮一 (医学研究科)

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」(以下、病児保育室)は、京都大学に在籍する全ての教職員・学生の子供(生後6ヶ月から小学校3年生)を対象とし、急な疾病により保育園/幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っている。事前登録制による運用で、登録者数はのべ718名、うち平成26年度の新規登録者は72名と年々増加している(平成26年12月末現在)。定員5名(感染隔離室1名を含む)であり、平成26年度は273名の利用があった(平成26年12月末現在)。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、今年度は例年に比してやや利用率が少ない傾向にあるが、利用者の感想としては概ね良好である。また、京大病院オープンホスピタルやホームページ等を通じての広報活動も継続して行った。

今年度は現時点での利用率がやや低くとどまっているにも関わらず、保育人数の増加や保育許可基準の引き下げを求める要望がある。また予約や利用の手続き上の問題点への指摘もみられた。感染対策上、困難な点もあるが、育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、よりよい運営方法を検討する必要がある。

### 就労支援事業 WG

主査 押川 文子 (地域研究統合情報センター)

本WGの主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきている。本年度中の利用者数は、第1期(4月~9月)16名、第2期18名、また応募者数は平成25年度第2期21名、平成26年度第1期28名と、ここ数年増加傾向にある。

利用者数は、公募期に応じて若干変動はあるものの全体として増加傾向にあり、予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきている。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、とくに外国人研究者からの応募が増加している。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多い。

雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題である。

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橘町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>